孫子六韜集

へ13
3682
2

門へ13
號3682
巻 2

教屁論後編自序

[illegible]

[illegible]

傳聞(でんぶん)に生(せい)を回(いく)夜(よる)八(はち)ゆるゝ上略(じやうりやく)

して書(かゝ)ゝ諸人(しよにん)目(め)を寤(さま)さべ。小夜

をとゝれ屁(へ)と撒(ひる)放(ゆく)夜(よる)貧(ひる)の優訓(さん)

起(おき)り。或(あ)ゝ鯨(くじら)浅(あさ)き所(ところ)に潜(ひそ)入る

内潮引く海とゝのゝ時。大よ国う
て。海鄙空氣と撥ねる潮の引きと
干とゝ。両道とを好ませ給ふ神と。
蛭子とひえびすとゝ。えびすの
へびとその百遠まて。あいうおを。を

ひゝへほ乃通韻より語り来れり。
又日本武尊の東征伐の時。夷
どもまつろはぬとりけ。大勢一度よ
屈とまつろて撥りれば。蝙蝠の方へ
吹靡。伏弟大拂らんとする時。

両刃をぬいて投げつゞ。夷の膏をきるうち切れ八方へ逃しゝ。逃るゝをへきたるきとりひ姫。へきたる益あり。庭潔く疾くるの形ゝ益あるといふ。十束の佩剣を抜く奥蘇乃霊剣と号す。

奥き拓を蘇らせしといふ河。大蛇の尾清盛八方の病を祈ひ。神八岳風を稱まつを入く髓を浸せば。昂時よ湯となる。後ゝ大ある池を拯。加茂川の水を堰

へ這めぐれるこゝ大激しく頻に
庭を撥しみよりゝ庭池の大ねと美名
ちられ。記せし紀深と庭池拙作と
いつ後世手ゝ書へ當字あり。
まこゝ未作難ク伊豆の玉へ

古選の西。こゝ多て彩よ芋飯
を喰。好んで好庭ちされる風ち
新とひるゞ小爲ちゝう。拙て設
と壮色らひ。山て撥と山ちとい。
古ゝ集の新ちり

あるいは山の山麓に遠ければ
ふるき梅風ハ花の香でもする
海色とよひ。澤色の蛍
八尾ヶ瀬あり。奥州の一の戸二の戸。
古戸の雪とへと訓ても家あれ

人あり。人あれば揺なちりと傳訓の
諧寵ゆゑ法名。出まゝ世ゝ敬出
て。世書の序とちりしブツウ。

風来山人誌

堀越保賜

放屁論後編

世の諺よ。蒭逕ゝるも浪人の習ひ。[illegible]
の俘勢ゝ。命。風俗太平記の日なれ[illegible]
ど。淳瑞本ある時ハ。さもゝ強ゝ[illegible]
くゆれども。夫ハ血臭ひ時[illegible]
[illegible]る時世よ。そんなみけびちひが[illegible]
見るあゝよ。今時の浪人ハ紙子ゆ織る[illegible]

虎子孫も情繋屠狗いつまでも活延るなど恥の上なり。但浪人のみあるべし。春さんの蜜腐魚と自出度唐代の使ハ陸奥直が下り。工農商の三民ハ貴れる素餐の振ハ忘れ。まさらの時ハ侍ぐ為れば世ハ治るべど。日本ハ小國でも。唐高麗ら指もさへあハ皆武徳なりとなるなど。ゑひ生を者もるきハ。芸で

俗ハ太平の世の御恩澤井を鑿く飲耕て食ハ。擇性借ら禮ハいつども。月日ハ禮ハいなぎるハ等し。治く太平の代ハあま世上一統金銀ハのみ目ら付る。先祖ハお馬の先ハ進。義ハ金鉄ハ堅く。今ハ塵芥ようる滅しと。踏ち高名と誇る家柄の子孫でも。又君と諫万民と教え國家の

礎を堅めん。と。心を砕く忠臣でも。算盤の桁多
る。今と。見一重沢早急よ金よちゝねバ。二二番
言語道断。六流が二進。雪隠が決ちん。完乃
せまい仕送り用人よ。家越豆。ねハおあゝよ由緒
ある。数代出入の町人でも。ふゆ表よちゝれバ無く
あゝらの。昨今今日まてよ代ち公。年季
那ゝの成よでも。今ちゝへ拵で。逃げ。延期。

御堅物御安全。様の字までとひねり
出ゝく。ゝ。ゝ。お。ゝる。ハ地獄の沙汰も。今ゝ
今ゝ敵の世の中。されバ。ゝ。証。今ゝ
ゝいゆゝ証ゝ。今ゝ。ゝ。証ハ。ゝ。
又。それよ。付ても。今ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ハ。いづれの。ゝ。連。ゝ。異。千万。
ゝ。ゝ。富。ゝ。ゝ。入。今。ゝ。

いつかよ。ゐる者の中等あるもと。味ゐ所へ
目のつく世の中。はらさる方にて。ぬくと不
ぬ言ゐ材。一家中。槍の稽古を止めて
殺の稽古が神りしの時。よくなけど。
槍といつ字ハ合を前よ書とつよ殺ハ合篇
ゐ今とつ字ちれバ。書ものを止めて。
ちつ今と今とと。あて字なるもゐ合へ

黙止がたし。いゐる名人達人でも金ゐき
庶生ハ度ごとと。俳もあちこちとゐ
えるり。いつの世よりゐるん。江戸神田の色
ゐ貪家浅内よりつる見る法もあき痩浪人
あり。抑彼が系図を尋ねゐを永くも天兒屋
根命の苗裔。大織冠鎌足公の末よ。菊亦
洛海公。讃州志度の浦にて海士人と野合

かの面向不背玉を採るのの時。一日を六十四人
で人ごとに備れ。浦人よりこび引上てりり
と。謡ふも仰られ。戯場ぐーくも名もあき
をいく仮者のもる浦人の嫡流なり。毋貧ま
温風扇を吞と見ゝく懐胎ー。此者と産
よう。貪乏神を氏神と仰ぎ。七福神と喧嘩
しく。故々とをく江戸の住居。されバ技芸

武百石。全盛なるあるーとあるのども。此男
何一ツ芸なもなく。又全盛のもあ
ざれハどちらびのちらが洋磯も
よりもぞ。浪のもつらば。流れ海りの瓢箪で。
鰻の樺焼鰻鱺魚を欺き見識ハ吉原乃
天水桶よりもなく。名あハ品川の雪原より
も冷しと。こゝのおどーの駄味噌を千人ま一人

八実ゝと吟込てぐ教化的の報謝米で石抱ゝ
とお供それバ。イヤく女ハ美色とるゝ宮ゝ入て
妬れ士ハ賢不肖とるく朝ゝのく惡まゝ。
比喩とるでヤさふるゝ孔雀鶏鸚哥の
類。高金出ゝて弄ども。外飾のよいぞうで。
るも捕らぞ。晨も司らぞ。蔡線午勞の
おそまるもるゝぞ又烏の男ぐりハ色ゝれども。

鶏ハまく起ゝく人をおこゝ。吉凶を知らうて
鵲告ちゝ。ぶ。ぶいといべきと。烏啼ぐ色ゝひ
の。いまくゝい鳥めあと。惡まゝくとるるまつけ。
良藥ハ口ゝ苦く。出る杭ハ打ゝ。ひ。されど
ども出ゝ。ぬ。君ゝゝ臣ゝゝ。
八情大名ゝ。冠者。脱活の虎るれ。
已ぐ性根ハ微塵もるく。風波寸で首を振

て。一生とるにさんハ。扨角親の產付〻宰丸を
ものゝ。浪人のん易さハ。一算乃
ばりけ一瓢の小生酒。恒の產ゑき代ゑを。
主人とゝ贅もなく。知行といふ飯粒ゞ足の
裏ゑ。ゆ付ぞ。行度而を駈めぐり。否ゑ而
ハ茶ゑ〻く仕舞ゑ。せめて八一生ゑ體ゑ。
自由ゑ。るゞあらけゑ。扨深ゑ。るを幸ゑ

種〻のユまとめぐ〻しく。伝の幸　日本の金
銀と。唐阿蘭陀へ引たくられぬ。一ツの物ゑ
もあらんと。ゑゝもいゝざる伝手ゑ。ゑく
ていすゑの　國恩を報ぜるといふもゑら
くさ。ゑ位ゑあゝぶれバ手段を謀〻ぞ
ゑの社ゑゝゑ大呆と。己も知〻ハ居るゑゑ
るれど。蓼食の蟲も好〻と。生れ付〻ゑ

四國八十八所

仮塚武十七番画

不拘好る堪りよりまんく。椽の下に力格
子骨ばかりけのもゆゑ名れきてふせるより
てひとりいへる人の體より火を出し。病を治
する器を作り出せり。抑此器ハ西洋の人電
の理を知く者。一旦工夫ハ付れども。まだ
の生涯みふの成ばば。三代を経て成就し
るといつり。此業地人といへども知る者ハ多て

おく。固朝鮮唐天竺の人ハ夢にも考ふ況や
日本国初て創て生まるるなれば高考
の業と初めてこんなを形ち若影し。
或日去る蛮の儒者。石金彩を見れ書とい
人ありて。観るに良久して曰。天地人の三才
に通達すると儒といふ。乃天下の書に眼は
さらし。理を知く推を対ハ森羅万象明

うるさくるのみべらべらとぶひしゃ。今色を
ふんとく始て驚くそれ燧と石扁柏と扁柏
お激するを。又ハ日輪の水精硝子を照し。
或ハ読ム映ずる時ハ火を生ず。時ハ臨で色
目うつも出散うつも出。扨又貧ある家内ハ。
火の降るもをとゝ吹ども。かるるのハぶんひも
ようぶで。いろる理ゆて火出るゆ。後学の為

ゑんと。そ射ゑん人うち臨ぎ。書を読年を学問
とゝひ。紙上の空論を行く格物窮理とゝよ
より百遠も出あるうう。さらバ火の出る根元
をお目ゑかけんと。元出を小冊ゑ。昔語花咲
男放屁論と題せり。ゑ人笑くゝ。ゆるハ折
は放屁といハ。ゆ年ハあ表国格の色にて。
花咲男と号。ゑんをあゆて近年の大弟。

諸の小戯場を撒廢せ、越ハ此放蕩論ゑ詳
なり。今年まゝ采女原ゑ出くこゑ福平と
名乗る。初代者の弟の上と云るゑ。父ハ大和の
国吉野のゝの猪人。佐次兵衛と云る者なり
しゞ年来多の猪猿を殺せ罪たゝもや
ゑひりん。近所の者あ人とゝ合せ四國巡礼
ゑ出るゑ。彼殺生の報ゑや。伊豫の国ゑ到せ。

佐次兵衛生まるゝ猿と共く林の中へ逃
のゝれバ。二人の連ハあきれ果。色非るく国ゑ
ゆゝりゝ。今幸潔ゑ。一ッ岩谷の佐次兵衛
爲。四国をめゝりて猿とゝるゝの二人乃
連兄ハ病れとも。お猿の祟るれバ生て来
ゝんのゝハ此の因縁なり。さて当人ハ国ゑ
ゆゝり。悴福平ゑ此訳を語れバ。一ト方なら

歎るれども。その所べき拙もあるざれば。せちて、
父が現世未来高生死の苦患を免る為
とて。一切經を作業せんとこゝに。ゆゑ
嘶東西と錢がるくくたゞり呉。本錢のゆ
ゑ今ところけをユまして。いつとなく庭と比較
みき。親孝行の奇特や。あ金持の屁撒と
江戸中の大評判。まよりも流花浦よ嘶や

此花嘶男。今を変屁と嘶や山。花の枝り
匂ひ海り。再江戸へ帰り嘶。こゝ福平や
名高く。家女婦の売藝。こゝ這子も
志ゝぬ者なし。扨彼こゝ和と連よりこゝ
とゞゞ。あ人も目おろるふ義を見ん。ハ
福平が志と感ど。彼二こゝ勝が追善供養。
ゝ力を合さんあ。空也上人の弁扣。菜筵賣

ようこんの付。新念佛を組向して。六字を
飾よ移りまゼ。うまひぢ。うまい陀佛うまひぢ
より拍子の聲唱奇。扨當世の立者ハ仲蔦
幸四良。こゝ。まゝまゝのき老ハ時み
大谷友右衛門。昇屋市川團十郎ハ未姫
まつ。ゝの新ゑ。まゝ。年ハ若いぢ。若い
陀佛。若陀と賣歩行。大評判お行り

も。皆福平ゞ孝行のゆゑ不古今まれるる
屋柄者と讃られバ。新弟一圓ゝ呑ゆゑ。
ふゝ義のゆとゝるもの。いうゝ彼撒家氣
漢。先年西國ハ原行しゝど。武家素女
系へ。ゆゝれどゝも。千信ハ聲もゝく臭もゝく
今ハ世ゝゆ法もゝ。當時法方ゝて評判
のゆゝハ。花んざ靈寶弥ゝき拍。十月乃

胎内千里の車。康ゑあれど猿ゑ曲馬あり。猿楽能雲が弁説ゑ。蘇秦張儀と蹴鞠で遊び。友世綱世が力ゑハ。巴。坂額千鯨あく禮ゑ有る。源水が獨糸ハ魂あり。動ぐごとく雷市が智ゑハ人ゑ立ゑ如し。彩〻助ハ一刃ゑ骨ゑ突落す。どう鬼ハ腕今様ゑ。やまゑん。大魚ハ鯊ゑ大蛇骨

出。俳子細工。牽絲傀儡ゑ。ろく彩〻く田舎通者の目ゑ悦ゑ。ろ姫ハ名ゑ。ろゑ。人魚ハ人をちやゑ。子彼角觝の元祖ハ。河津殿。ゲ俳ゑ。鶉鷄相撲の後屋ゑハ。魯の季桓子拳ゑ握る。ゑの立合狗の藝。仕込ゑ。弧ゑ。ゑ。ゑ人ゑ。人別帳ゑハ付ゑ。畜生ゑ。ゑ。ゑの

者ハんとて。己が恥とゝゝべー。あるが中みと
険竿の大崎り。ホ橋拙江が英新ハ。弘法大師
をと捨。韓退之淀と流を。三三花彩花が
體ハ我骨車のせるがごとく。ホ花樹くゝ
一本猥ハ。又雑を天ゝ狗ゝと疑ハ。是をとて
孫ーとゝゝべゝれ。何そや古き屁撒をこと
くを也拙。拙ハ屁の論輝をなゝハ者ハ

も彼ゝれまてるよう大の出る屁をなんと
してたゞうーよ。仏の外の屁あいーらい。さてゝ
我ら屁の如くゝひゝやと。まゝみかつく
立仮も。も時蔵門詞を和ゝげ。多れきてる
よう犬の出る屁をなんとおゝあれども一天
四海引ゝるゝての大論ゝて一紙一夕ゝ論ゝがゝ
結く近く賀ゝとれて教んゝる。扨ゝて屁論ゝ

仲
玄武画

及ぶなり。夫。佛法ニ地水火風空を又輪といへり。
空と風とハ雜用にて。つまる所ハ四大なり。此
水火と氣ハ天地のなを滿くるなり。凡人
の體中ニ備ハれハ。四の相皆體中ニなり出る之
日しの會拙嚢と成く又穀の肥となる。これ
人るの體なり土の出るニあるぞや又小便と
なり汗と成ハ。體中水を出さるなり。ニ立て

ハ呼吸。下ニ立てハ屁と号く。是體中氣の
出るなり。あるゞ中ニも火と成るゝ萬物造化
の産元ニて。その火を大陽と号。その末を火
と号く。日と火の倭訓同しさも天地自然
の理なり。されハ神ニ天照大神。佛ニ大日
如来。金剛界ニ地上をさし胎藏界と垂
地下とさし。十方億土無量壽佛。及照自己

本来空。秘密も悟道も引るめて。此日輪す
まさずれば。古ハ皆な體の石。水ハ皆な體の
氷なるかゝ。其本を性ぎるのみなく。魚鼈を育
もべき道なし。役ふあるくも生なかれば
戯場の出来ざるは異なるまぢかる理を知
時ハ。糞と成も汗となるも。屁の出るも必の出る
も。同〜體の小天地。固怪ふ見るべきなれども。此

よりうき出ハ。遂ふ出ハ出ずとなる加怪
まぢ。ふれきてるより出る出ハ。銀幻郷の
ふるふる。又ハ関捩ふまぢ人形と一つのみ元元
劍ふ峰でふる事も多き中ふ天文暦数酸
も甘も呑ぢ紀ふ。理ふ通達する
人ふハ。同ふ骨ありて答ることあり。人乃
分量智恵の程をふるざる人ハ。僅の義とい

之ヨ。ひるぎ」とる法人者や。日清月清ようてく。
雑劇の藝者は指ようんはるぐ芸ゝト。も
天地の万り火祭そるき拍るく。その火の発
と目彩ヨ喻を加。ふれきてるわどそるき笑色。
又吾　日本
神武帝より今年まで。二千四百三十九年死
でせくく入ぎるる人を数かぞへ書されぞ

大勢の人るの。ちゝざるるを抱んと。毒を
破り禄と捨ユまを凝らし今孤を買ゝ。
ユ生るものひるれきてるのみあぐそまで
像度ようき毒物とんぜるも亦ゝぐ。
世るのみヨ脊とおバ。世ようで山脈と謂れど。
嵐捕る猫ハ爪を加ゝと。ふるり却ゝく人物
奥ちき面ヨ如ヨ。都く山脈ハいるもを人ハ

藝を以て山の只代とす。蒙ハ山に似ることなれば
藝の助とす。那とと云ふ。磯ばあん餅を
あんころ餅の赤小豆の如し。まゝと合とを行く
とゝ。是までの彩力を一器に合て凝
て。一生髏鼠なる物の類を成。生涯ハもゞれて
も。握ゝる合ふ弱きば。陸形物なる通ゝ。仮に
生涯を郷とべゝば。人ハ無れ来居れ。後世

も緑瓜も瓢箪も。沉香も栴檀ぞ屑も撒らぞ。
上ゝ名人とゝハ相亜。下ゝとゝゝ藝もる
食ゝく屠しく森く起く。那ぞ亜で残る
ハ。骨と沈文ぞゝゝ。ゝゝ物るゝちもゝ
ぞ。ゝ出ゝゝゝ無ゝの達の蛭ハ相亜蛟虻や
形盤魚を糞でゝく せゝゝ考て合せて合
乳ゝ成ゝゝる時ハ。盲でゝも生る金。生来

ざるのもあるまゝく。近ひ例ハ名れきてる絨。
支国ゝ淺草へ入せ始よ出ものハ。押へ件る
大金。豪猾綿羊るんどの例もあるゝ。ものもる
者も多りれど。法陽の理をおもゝ始と勿論
るゝ。合点せば。さられバ名るゝハ飴をゝく光
と出るんるとゝひ。盗賊ハ錠を明んるのとゝ。
それ故のゝ名。綿ハ綿羊を見ゝく

日本にて羅紗らせるごろゝく出んちゝん
とゝうんへるへとあんっさるせ毛氈類の毛織を
織ゝ。外國の濟りを待ぞ。用よ絵もんとんと碎
き。人ハ手絡よ綫をせーちんと紡る。いゝよ拍
いゝ女高紡じやとて毛を織ゝく家の益ま
もるおを。らゝやちんうんどあてゝおまいる名
とつけ。絵ゝで髑を塗りちらし。引ぞう四

て恥をさらし。綿羊の手あるも氣毒なり。世よ
ある人ハ銭をもうけ。残なき者ハ意地をはり。
渇しても盗泉の水を飲まず。屁理で南瓜お
唐茄子とていふさる工夫に今銀を費すよ
銭内なり。夫熟惟。骨を折て損るハ酒買
く屁切る。古今無双の大たはけ。屁の中落
とく見るなら。かのまれきてるとへれき

てると名をかへ。我も三國福平が弟子となり
故郷をかさどりて四國撒屁と改名し。屁撒
藝の仲間へ入。芋連中と参會して。尻の
穴のあらん限り撒り響ハさんやと鳴るなり
臭ひ者の身知らずぞ。以来口上撒やさるべし
と。屁撒て後の尻まくれめ。まじめになりて
いひければ。新参まつあきれて顔見て兎角

是ハ古方家ヨリ下サセザルハ肝積ハ治ル
まいと。ほんやきゆるぐろ。ゆるとゑんく。眠らぬ
夏ハ冬ヨリ寒。

放屁論後編終

追加

去る申の年。背原獅とゆると立出し。世ヨ狐れ
名ゆ。好人ゆう和歌を詠ひ。その返歌ヲ下
を安ヨ云ふ。

用ゐれバ嵐のごとも上ス天竺をあわれ。用ゐざれ
バ虎皮褌も地獄の責苦ヨ泊さるとゆと
昔の唐人の寝語。実ニ呵らくよ。
ヨ答らるゝ快ハ人情なれハ。虚言と迂闊ヒ

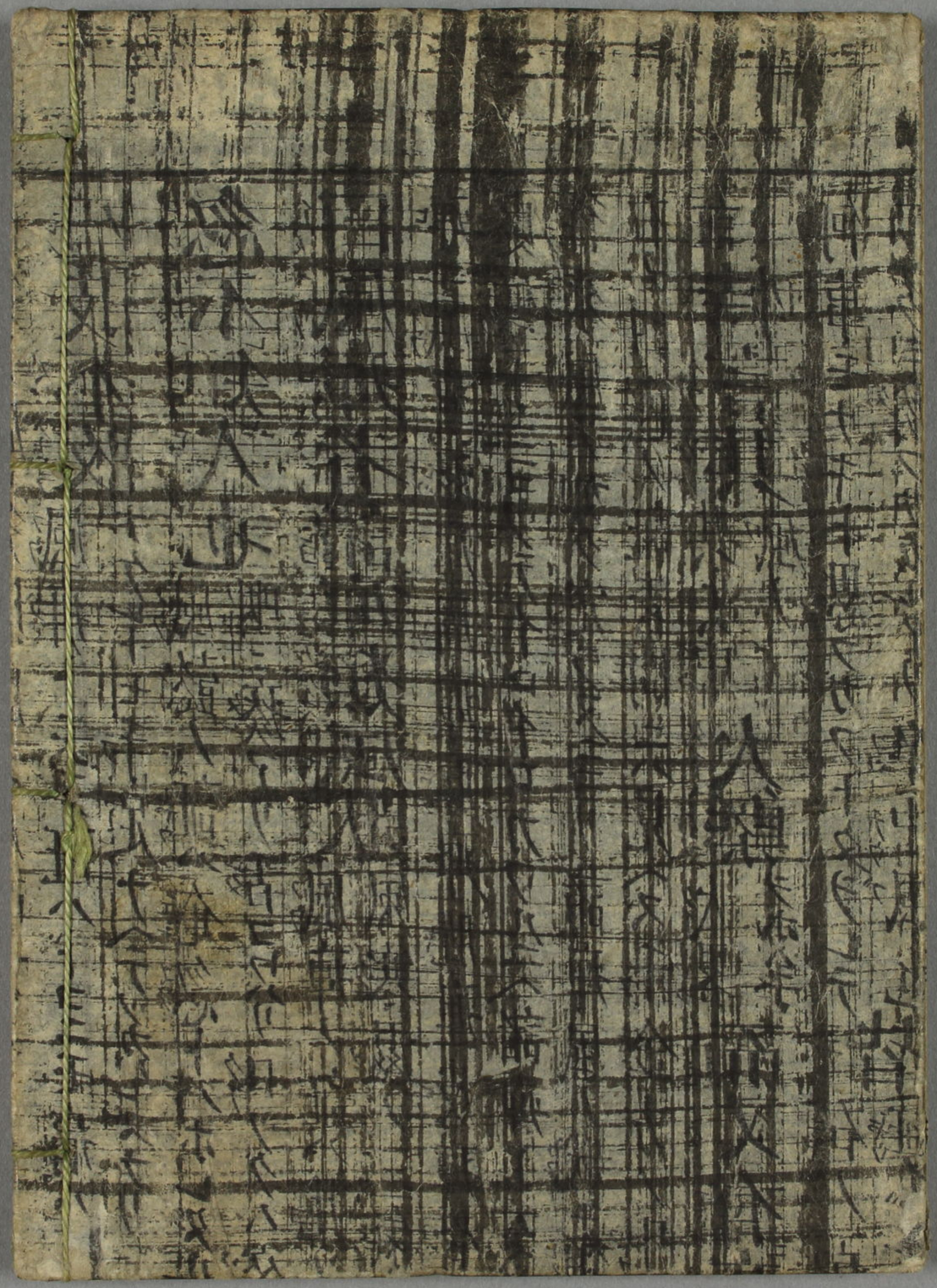
といふなれば。人當世をあるといふ。抑は當世とは
いふものの今ぐりうのようあるべし。祝鮫が俊宵て
宋朝の義あるべんで難手今の世よ見れん
ものあれば昔ようみるの當世よりて。八百屋
が助六は柏延が助六なれども。人今の様の
ものも片猴いて。あるものも。万人の彫り一人有眼の人と

なりて。仮よも遁後輩といさざれば時よあるな
ハ拾弟ありされとも人と生し冥加の為
國恩と報せんるのをるあてんを見ればぱ世人称
して山師といふ。コヲ戯く日。智恵ある者智恵
なき者と儀よハるる廉といひたるけとなあり
といひ者ら坊といへども。智恵なき者智恵
あるものと儀よハ。手何を用ることあるべ。ら

山師くと謂るより外なし。造化の理を窺
んが為に奪拙よんを弄ぶ。人を本末者と
号す。草澤醫人の下細工人のよんは。已に醫
のむぎ書よ淫猥や小説ゝ離ぶ。通俗閑話
自笑其積が類とんは。火院布ゑれまてるの
奇物をユめバ。竹田近江や義勝と十把一からげ
のうひをすて変化物の如きものをちゝぶ我

日本の益をなさんものを
のゝ。或ハ適大法侯の為に傷りしものゝ。玉家
の大益なきもあゝざれども。投免死しく
良狗烹られ。ゑるゑるゝ弓藏る。細工負
人宝。嗚呼落ひゑの糸耳垂珠と培を開き。
乃命を活ゝく賞よ。尚財物ゝき内職そ。其
糟をうひ浅をせゝんとゝひ附をゝも

卯雲木室君は尻尾を見出されぬ。おろ〳〵る
狐狸よ
醉て寄こす小百姓のおて漾ハ
仕出し乃掃もくゝ中る箒なり
実や已をきゝぎるは屈〳〵く。已を知るは伸
とゝんとゝバ。氏中を合ヤさんとて。バりまく八百を出
ちゝて。固已を知らぎる人は見せるまハあらぎ。

嵐雪八が曰。アヽ氣が遠ふさそふる。
かゝる時伯父と千里乃こゝ地をめや
伯父樂も有し〳〵ふつゝひもなし〳〵

風來山人誌